

第 11 回企画等専門調査会（平成 26 年 7 月 11 日開催）での意見

【リスクコミュニケーションのあり方に関する勉強会関係】

（全般論）

- ・ リスク評価におけるリスクコミュニケーションのみならず、リスク管理におけるリスクコミュニケーションも含めた食品安全全体のリスクコミュニケーションについて議論してもらいたい。
- ・ これまでの経験や現実に応じた話題、事例を背景として、どのようなリスクコミュニケーションなら受け入れられて、どのようなものはダメだったのかを踏まえて、今後のリスクコミュニケーションの形を議論したらよいのではないか。
- ・ 1 回のコミュニケーションで理解が深まるというのはあまりなく、いろいろな立場の人が重層的に、繰り返し実施することで、理解が深まっていくのではないかと。リスクコミュニケーションは長い目でみて効果や成果を判断すべきではないかと。
- ・ リスクコミュニケーションは説得の場ではないというが、ではリスクコミュニケーションは何なのか、交渉なのか、お願いなのか、そのような点も議論したらよいのではないかと。
- ・ どのようにしたらステークホルダーのコンセンサスが得られるようなリスクコミュニケーションが行えるのか議論したらよいのではないかと。
- ・ リスクコミュニケーションの推進に関して過去に良い資料をまとめているのに、実際のリスクが広がっているという実感がない。具体的に成果が出るリスクコミュニケーションのあり方を検討したら良いのではないかと。

（食品安全委員会の認知度）

- ・ 食品安全委員会は、科学に基づいてリスク評価を行い、その内容を伝えていくのがミッション。
- ・ 食品安全委員会の認知度が低いのではないかと。認知度を高めるにはどうしたらよいかと。

（情報発信方法）

- ・ 食品安全委員会の情報提供の媒体や情報提供の方法といった方法論についても議論したらよいのではないかと。
- ・ 行政が直接情報発信する場合と、マスコミ等を介して情報が伝達される場合では、受け止められ方が異なるかもしれないので、その点の分析も行ったほうがよいのではないかと。

(対象者に応じたリスクコミュニケーション)

- ・多くの普通の人には自ら積極的に関心を示さない。情報の受け手の多様性に配慮したリスクコミュニケーションはどうしたらよいか議論したらよいのではないか。
- ・食品安全にあまり興味を持っていない人が興味をもてるような内容にするにはどのようにしたらよいか議論したらよいのではないか。

(その他)

- ・子供たちへの教育も重要で、学校教育にどう反映させられるのか議論したらよいのではないか。
- ・リスクコミュニケーションを行った結果、どのように変わったかをどのように評価するのかについても議論したらよいのではないか。

【現在の活動内容関係】

(情報発信全般)

- ・海外を意識しての情報発信はどのように行っていくのか。
- ・情報発信している内容が難しい。リスクコミュニケーションという言葉すら知らない人にとっては、HPもメルマガの読み物版も難しい。もっと易しく分かりやすい情報発信を考えていく必要があるのではないか。
- ・現在、一般の消費者に食品安全に関する情報を伝える活動をしているが、トランス脂肪酸や農薬のように、一度間違った情報が消費者にインプットされると、きちんと説明してもなかなか修正されない。
- ・ポスターを作成して店舗に掲示してもらう等食品企業を介した情報発信にも取り組んだらよい。

(Facebook 関係)

- ・F S A N ZのFacebookの支持数と現在の食品安全委員会の「いいね」数とでは人口を考えてもかなりの開きがあるが、食品安全委員会では目標をどう考えるのか。
- ・会議の実施を紹介する際には「～活発な議論がありました」というだけではどのような議論があったのか分からない。どのような議論があったのか内容も発信したほうがよい。
- ・教科書的な内容ではなく、いかに興味をもってもらうかという観点から、一般の方の生活に直結した内容にするのがいいのではないか。

（メルマガ関係）

- ・ターゲットを絞って新聞よりも先にアラート情報が届くというようなサービスにも取り組んだらよいのではないかと。毎日くるメールだと見なくなってしまいが、アラート情報のみに絞ればニーズがあるのではないかと。

（ＨＰ関係）

- ・今のＨＰのデザインは、正直言って「ダサイ」。言い回しや使われている用語も難しい。
- ・Facebook のバナーが Facebook に直接飛ばないのは見直した方がよい。
- ・いろいろなところにＨＰへのリンクを増やして、もっと露出するようにし、食品安全に関する情報なら、最終的には食品安全委員会にたどり着けるというような仕組みを作り上げたらよい。

（その他）

- ・連続講座の取組はよい。分かりやすく勉強になる。
- ・子供への働きかけは重要。
- ・訪問学習の実績はどのくらいあるのか。
- ・食品安全ダイヤルは電話しにくい。
- ・ツイッターにもとりくんだらよいのではないかと。
- ・食品安全委員会に寄せられた質問が、ツイッターで公開されていれば生活者に一体感がもてるのではないかと。
- ・インターンシップに取り組んで、学生に興味を持ってもらったらよいのではないかと。